

～課題研究発表～

能代西高校では、総合学科における学習の集大成として、各系列の生徒自らが設定した課題に取り組んできた過程や成果を発表しあい、自己の進路選択や人間としての在り方・生き方について考えさせる機会として「課題研究発表会」を実施しています。

1月24日に行った発表会は、5系列5組のグループの3年生の代表が1、2年生や先生の前で、自分たちの行った研究内容をスライドショーや映像などを通して発表しました。



生活福祉系列の「セロリの苦手克服」の発表では、臭いや味で嫌われているセロリをどのように調理をしたらおいしく食べることができるのかを研究したものでした。発表では、セロリに高血圧やむくみの予防に効果的なカリウムが多く含まれていることに着目し、塩分過多の食生活を送っている日本人には積極的に摂る必要があると説明しました。サラダやスープ、浅漬けといったセロリの味がする料理ではなく、スムージーであればセロリが苦手な人も気軽に飲めるとし、バナナやリンゴと混ぜたスムージーを作り生徒や先生が試飲をしました。試飲した感想として「おいしい」、「セロリの味がしない」といった声が聞かれました。

また、生物資源系列の「野菜の生態～害虫他「自分を守る」編～」では、毎年発生する害虫から野菜はどのように自分を守っているのかを発表しました。西高農場で栽培されているキュウリ、メロン、オクラ、ネギの4種類の野菜を研究対象にし、それぞれの結果を報告しました。キュウリ、メロン、オクラといったウリ科の野菜は「トゲ」があり、害虫や動物から身を守るために何百年も前から進化し続けていることが報告されました。一方、ネギは硫酸アリルを成分とした特有の辛みと臭いで害虫から身を守っていると話しました。

その他にも、カエルの体について研究した「カエルの生態について」、ボールケース製作をした「3年間のあゆみ」、常盤の自然を満喫する「毘沙門憩いの森満喫ツアー」など、どの系列の発表も、研究を通して得られた経験や学んだことをわかりやすく説明したもので、今後研究が始まる1、2年生にとって参考になる発表会となりました。



製作したボールケースを紹介



スムージーを試飲する生徒



丁寧に説明する生徒